

令和元年度 懇親会に参加して

介護老人保健施設みしま野苑一穂 濱谷有希

今回、新入会員として令和元年9月28日に開催された懇親会へ参加させていただきました。実習でお世話になった先生方や様々な分野で活躍されている先生方と懇親会という形で沢山お話しできる機会ということで、とても緊張していました。しかし、先生方のほうから積極的に話しかけて下さり、緊張で固まっていた私から仕事や実習でのエピソード等の話を上手く聞き出して下さったおかげで、楽しく交流することが出来ました。学生時代は、社会人の方と接する機会はあまり多くはありませんでした。作業療法士になって1年目ということもあり、利用者様との関わり方に悩むこともありました。相手の話を引き出すコミュニケーション技術は、今後の自分の強みになっていくと思うので、これから様々な方と関わり、その技術を習得していきたいと感じました。

そんな中印象に残ったのは、作業療法士という職種は病院や施設だけでなく、震災等の被災地の現場でも中心となって活躍できるのではないかという話です。災害リハビリでは、生活不活発病の予防や居住支援、精神的ストレスへの対応、他者と交流する場の提供等、他の職種よりも様々な面でのアプローチが行えるはずだと先輩方の作業療法士としての熱意やプロ意識を感じました。また、この話を聞いて被災された方にとって一番大切なのは、以前のように何気ない日常をまた過ごせるようになることではないかと思いました。先輩方が、今後更に県士会や作業療法を発展させるためには、若い力が必要だと言って下さり、今の自分に何ができるのかを改めて考えることができました。

懇親会は普段関わることの少ない先生方と交流できる良い機会であり、作業療法士の魅力を改めて感じられる場でした。今後は、どんな作業療法士を目指すのかを自分や利用者様と向き合いながら成長していきたいと思います。

